

原子力防災を知る機会づくりに関する実践

研究員 大杉 遥

東日本大震災・
原子力災害
伝承館

研究概要

原子力防災および福島第一原子力発電所の廃炉は、住民と事業者、国、行政といった多様な関係者によるコミュニケーションと信頼の構築が重要視される。本研究ではコミュニケーションのツールとして勉強会に着目し、原子力災害への備えである「原子力防災」を知ることが目的とした勉強会を開催した。勉強会は、一般防災に関心を持つ市民団体が主体となり実施された。勉強会参加者を対象に実施したアンケートの結果、原子力防災を知る機会づくりは、市民が原子力分野の情報の取得や課題意識を持つきっかけとなり、さらに防災を自分事に考えることで原子力分野の社会課題への興味・関心の向上や情報発信に発展できる可能性が示唆された。

【背景・目的】

□原子力防災 → 原子力災害時の避難や防護などの放射線から身を守るための知識

2011年3月 東日本大震災
2024年1月 能登半島地震

大震災と
事故の経験

重要視、取り組みの見直し

原子力災害時の
避難計画

放射線教育

【課題】

市民への原子力防災教育と放射線教育の
未普及・未定着、取り組みに地域差がある

情報を得るための機会づくりが必要

→ 市民主体で開催する勉強会 開催

【目的・方法】勉強会の開催と内容

【目的】実践を踏まえて、市民向けの原子力防災を知る機会づくりに関する関心事や構成等を検討する。



表1 勉強会の開催概要

開催日	2024年4月27日
開催場所	静岡県静岡市
講師	福井大学附属国際原子力工学研究所 安田伸宏 先生
内容	①講義「放射線の基礎知識」 ②講義「原子力防災」 ③トークセッション（質疑応答も含む）
参加者人数	184名 会場参加：57名 オンライン参加：127名

勉強会は、防災・減災や地域貢献活動に関心のある一般市民の団体が、同団体の勉強会として企画・主催した。

ハイブリット形式で開催され、全国各地から幅広い年齢層の参加者が計184名参加した。質疑では、防災だけでなく広く原子力分野に関する内容も多く見られた。

□無関心層へのアプローチ

参加対象者は、これまで原子力や放射線に関する情報に触れる機会が少ないことから、事前知識の共有が勉強会のテーマに対する興味関心を高める効果があると考えた。

事前学習として、放射線と原子力災害・防災に関する情報を盛り込んだオンライン企画を実施した。

・原子力災害時の避難に関する語り部や経験者からの原子力防災を知る必要性の喚起が多くの参加者が動員するきっかけとなった。

今後の取り組み

『勉強会』のツールは、情報を知る機会となるだけでなく、市民が原子力分野の情報の取得や課題意識を持つきっかけ、さらに原子力分野の社会課題への興味・関心の向上や情報発信に発展できる可能性が示唆された。これらの知見を踏まえて、進捗や今後の方針の議論が必要な福島第一原子力発電所の廃炉と放射性廃棄物処分の対話の場への活用法を模索する。